

援助的サマースクールの研究IX (その3)

A Study on Supportive Summer School IX (3)

遠藤 啓太

(東京成徳大学大学院)

石崎 一記

(東京成徳大学)

Keita ENDO (Graduate School of Psychology Tokyo Seitoku University)

Kazuki ISHIZAKI (Tokyo Seitoku University)

要 約

本研究では、今年度の援助的サマースクールにおける参加者29名のうち、小学校4年生の男児 A.T の行動とかかわりを整理し、A.T の性格特性と対人関係の変化について考察した。今回のサマースクールでは、A.T の性格特性として、受け入れる優しさと素直さが見られた。また、対人関係において、自分の意見が受け入れられることによって、自尊心が高まったと考えられる。そうした中で、相手の意見を素直に受け入れられるようになっていったのではないかと考えられる。

キーワード：援助的サマースクール、ADHD、コントロール行動、自尊心、素直さ

I. はじめに

東京成徳大学が主催する援助的サマースクールは、「浴びるほどの自然を体験すること」「異年齢集団の中での相互作用を体験すること」「自立的な生活を体験すること」を基本方針としている。今年で9回目を迎え、平成22年8月16日から21日(5泊6日)に実施された。昨年度までは、戸隠で行なわれていたが、今年度は栃木県鹿沼市にて援助的サマースクールは行なわれた。参加者は、幼稚園年長から高校3年生までの29名であった。本稿では、A.T について焦点をあて、A.T の期間中の行動や様子を整理し、本スタッフとのかかわりの様子から考察する。

II. 事 例

1. 対 象

名 前：A.T

性 別：男性

年齢・学年：9歳・小学校4年生

家族構成：3人家族(父・母・対象児)

障 害：ADHD(わんぱく型)・睡眠障害・気分障害

以下は、事前調査アンケートによる A.T の特徴である。

(1) 生活習慣

薬を飲んでおとなしくしていれば1時間ほどで眠れるが、興奮しているとなかなか眠れないことがある。

(2) 対人関係

気分には波があり、調子の良い時は誰にでも優しく礼儀正しい。調子の悪い時は、人を急かす・勝ちにこだわる・人のせいにする・怒りっぽくなるなど ADHD の傾向が目立ってしまう。落ち着けばきちんと理解出来るが、子ども達の中にいると頭の整理がしづらくなってしまう。

(3) 性格・行動

明るく、正義感があり、元気である。しかし、痛いことがあったり、友達に嫌なことを言われたり、天気の変わり目にネガティブになってしまう。また、言葉に傷つきやすい面があり、気持ちの立て直しに少し時間がかかることがある。

2. 参加の経緯

初めての参加で、当大学院の修了生・西谷さんからご紹介されたとのこと。援助的サマースクールに期待していることは、子ども同士のコミュニケーションの楽しさを味わい、自然の中で思いきり遊んでほしい。親と離れて過ごす経験を通して、「自立心」や「自信」を持ってほしいとのことであった。

3. 期間中の行動

(1) 1日目

【開会式】

席に座って、木の名札に絵を描いていた A に「おはよう。A君のバディのけいちゃんです、よろしくね」と言うと、「うん、よろしく」とこちらを見て言い、また絵の続きを書き始めた。絵を描き終えた後、A.T とゲームの話をした。「このゲームやったことある？」と聞かれて「昔やったよ」と答えると「じゃあまたバスで話そう」と言って、サマースクールの旗に名前を書きに行った。名前の他に何か書き始めたので「何書いてるの？」と聞くと「うんこ」と笑いながら答えた。その後 A.T は「俺 ADHD だったので、少し変わっ

てるんだ」と言って、ADHD の説明をしてくれた。「詳しいんだね」と言うと「ママとかお医者さんから結構聞かされてるから」と答えた。開会式の後、見送りに来ていた母親に「じゃあね、バイバイ」と言ってバスに乗り込んだ。

【バス移動】

「どこに座ってもいいの？」と聞かれたので「いいよ」と答えると後の方に向かった。座る前に母親に手を振ってから、反対側の窓側の席に座った。「隣いいかな？」と聞くと「うん、いいよ」と答えた。トミーが来ると、「トミーとけいちゃんの間座る」と言ってトミーを窓側の席に座らせ、「けいちゃんが補助席だと、転がりそうで面白そうだから」と私が補助席に座るように言った。バスレクまでの間、じゃんけんをした。必殺技があるじゃんけんで、そのやり方を説明してくれ、何度もやった。バスレクで、色紙にサマースクールの目標を書く時「サマースクールではどんなことするの？」と聞かれたので伝えると「川が楽しみ、釣りがしたい」と言って、色紙に『フィッシング』と書いた。「釣竿は使わないで、手掴みで捕ると思うよ」と伝えると「手掴みは怖い」と言った。

【オリエンテーション】

ウォークラリーでは、率先して班のリーダーに立候補し、「俺がリーダーだから、みんなちゃんとしてきて」と言い、張り切っていた。班の人たちが走り回ってそれぞれどこかに行ってしまうと「もう、みんなちゃんとしてよ」と言った。同じ班で歳の近い K.M と Y.K の名前を呼んで、呼び戻そうとすることが多かった。Y.K は呼び止められて何度か応じたが「わかってるよ」と言いつつ、どんどん前を行く K.M を走って追いかけることが多く、A.T は「走るなよ、もう。なんなんだよ」と言っていた。また、「みんなで行こうよ」、「一緒に行こうよ」と同じ班の子たちに何回も言っていたが、あまり行動をとともにできなかった。

【外遊び】

遊び場作りや秘密基地作りはせず、ずっと虫を追いかけていた。「超でっけーバッタがいる」と言って走って追いかけて、近くまで行くと気づかれないように慎重に近づいていった。バッタを捕まえると「捕まえた、ほら」と見せてくれた。「すごいね」と言うと嬉しそうに笑い、バッタを見つめていた。蛙を見つけると「蛙がいる、これ持って」とバッタを預けてきた。

【夕食】

食堂では、準備をしてすぐに席に座った。「隣座ってもいい？」と聞くと「いいよ、んじゃトミーが正面ね」と答えた。「野菜は嫌い、特にきゅうりと玉ねぎが駄目」と言って野菜はあまり食べなかったが、ご飯・味噌汁・ハンバーグをおかわりし、夢中になって食べていた。

【花火、星の観察】

A.Tとバディの3人で数本やった後、「煙い」と言って橋の入り口あたりまで行き、「すごい煙だ」と言ってみんながやっている花火を眺めていた。

星の観察でビニールシートに寝転ぶと「気持ちいい」と言って、深呼吸をしていた。私が「星が見えなくて残念だね」と言うと、「残念だけど別にいい、しょうがない」と言った。

【日記】

「何を書けばいいの？」と聞いてきたので「今日あったこと、何を書いてもいいよ」と言う『タクシンが面白かった』と書いた。

【就寝】

「寝る時間だよ、電気消すよ」と言う「部屋が暗いと怖くて眠れない。眠るまで明かりを消さないで」と言った。「怖いのか、傍にいるよ」と言う「うん、でも消すのは怖い」と言った。また、「部屋の人がうるさくて眠れないよ」と言って、部屋の子どもたちに「静かにしてよ」と怒っていた。

その後、同室のH.Nに「一緒に隣に寝る約束

だろ」と言ってH.Nのベッドに登ろうとした。「約束だろ」と何度も言っていたが、トミーが「じゃあ俺が隣に寝るから」と言ってA.Tの隣に横になると眠った。

(2) 2日目

【ラジオ体操、散歩、朝食】

外に出るとすぐにバッタを追いかけて始めたので、「ラジオ体操始まるよ」と声をかけると、「こいつ捕まえてから」と言った。バッタはなかなか捕まらず、みんなが散歩に出発した後ようやく捕まえて嬉しそうにしていた。散歩はバッタを手の中に入れてまま、最後尾を歩いた。前夜に引き続き食欲旺盛で、ご飯を3杯食べていた。食事中好きな食べ物話になり、A.Tは「味噌汁では、大根の味噌汁が好き。でも、この味噌汁もうまい」と言って笑い、「大根の味噌汁でないかなー」と言った。

【川遊び、マスつかみ】

川遊びが始まると、子ども3人と組んでスタッフに水をかけていた。「トミーも僕の仲間だから入っていいよ」と言って、その後も水かけをしていた。

私が、係りの仕事から戻ってきて「ただいまー、帰ってきたよ」と声をかけると、「うん」とこちらを見ずに言い、マスを夢中になって追いかけていた。捕まえると、マスが逃げないように石が置かれた川の中に入れ、「こいつらは生贄」と5匹くらいを指して言った。「内臓取って、魚焼いてもらわないの？」と尋ねると、「いい、けいちゃんとトミーがやって」と言って、またマスを捕まえに行った。

川遊びでは、土手から川に飛び込むことをしていた。豪快にジャンプした後「今のすごいでしょ」と言ったので「本当にすごかったね、怖くないの？」と聞くと「うん、全然」と笑顔で答えた。その後、土手の上で一緒に飛び込みをしていたI.Kとケンカをした。最初はA.TがI.Kに「押すなよ」と

言う、I.Kは「押してないよ」というやり取りをしていたが、飛び込みをしてみた土手に上がるとA.TがI.Kに「押すなよ、押すなよ」と念を押すように言い、I.Kは「押してないよ。速く行けよ」A.Tは「ちょっと待てよ、押すから行けないんだよ」I.Kが「だから押してないって」A.Tが「押したじゃん」と口論になり、A.TがI.Kを殴ったので私が止めに入った。その後、私が「どうしたの？ Iに押されたのか」と聞くと「そうだよ、押されたからやり返したんだよ」と言い、「お前何年だよ」とI.Kに聞いていた。I.Kが「3年だよ」と答えると「なんだよあいつ、年下のくせに。生意気だ」と言った。

【ゲーム大会】

『震源地はどこだ』で震源地になろうとして、毎回積極的にジャンケンに参加していた。興奮した様子でとてもテンションが上がって、オニに震源地が誰なのかを教えようとしていた。

【就寝】

「疲れた、もう寝たい」と言うので、私が「日記やオセロはまた明日にしようか」と言う、「うん、そうする」と言って寝る準備をした。

(3) 3日目

【ピザ作り】

ピザ作りの説明が始まって虫取りをしていて興味を示さなかったが、グループの子たちが道具を準備し始めるとピザ作りに興味を示した。虫取りをやめてピザ作りを手伝い始め、その後は一緒に生地をこねていた。できたピザを食べながら「なかなかよくできた、うまい」と言って、バディにも少し分けた。

【火熾し】

見つけた木の棒で、私とトミーとチャンバラごっこをした。「俺がこうしたらこうして、こうしたらこういう風にするんだ」と殺陣のやり方を私に教えた。私が「難しいな」と言う、「これから特訓ね」とニコッと笑った。

【カレーコンテスト】

リーダーとしてみんなの役割分担を決めて、取りまとめようとしていたが、グループ内で具材をどうするかで分かれた。まずは、肉をどうするかをグループ内で何度も話し合い、意見がまとまってソーセージに決まった。その後、A.Tが特に苦手な玉ねぎをどのくらい入れるかで意見が分かれた。最初は入れないで作りたと言っていたが、グループからどうしても入れたいと言われ、途中からあまり入れないで欲しいという意見に変えた。しかし、玉ねぎを1個入れるか2個入れるかでまた意見が分かれ、1個入れるという自分の意見がそのまま通らずにイライラして、A.Tはその場を離れた。そして、野外炊事場の周りをトミーと5週くらい歩いて、グループに戻ってきた。少しして、文句を言いながらまたカレー作りを手伝った。

カレーができあがると「玉ねぎが溶けてない」と言いつつ、グループメンバーと一緒に座って食べていた。嫌いな玉ねぎやにんじんを見つけると「K、これあげる」と言ってK.Mの皿に入れようとし、K.Mは「うん、食べる」と受け取ってカレーを食べていた。

片付けの途中「疲れたから休む」と言って歩き回り、道路の真ん中にK.Yとバディが座っているのを見つけて、その近くに座った。K.Yの障害がどのようなものなのかをそのバディに聞き、その後は自分のことについて語った。内容はイライラについてで、「周りに人がいると、一度に2・3人の人の声が聞こえちゃって、聞き分けられるけど、それで頭がゴツチャになってイライラしちゃうんだ」と語った。

【日記】

黙々と書き始めた。『木でチャンバラごっこをしたのが、一番楽しかった!!』と書いていたので、私が「楽しかったね」と言う、「うん」と言ってニカッと笑った。

(4) 4日目

【外遊び】

前日までは虫取りやカエル取り、ハンモックをすることが多かったが、この日は朝からバディとチャンバラをした。

【手打ちうどん】

うどん用のカップを作るため、最初に竹をノコギリで切った。どんどん速く切れるようになっていき、「いっぱい作る」と言ってどんどん切っていた。自分のカップには名前を書いて嬉しそうにこちらに見せてきた。

うどんをこねる時は、グループでこねる人が先に決まっていたので、「うどんこねたいのに……」と言いつつ、「後でいいや」と言ってうどん粉に水を入れる係りをしていた。また、うどんをこねたり切ったりしている時、同じグループの M.R を誘って「一緒にやろうよ」と言って参加を促していた。

うどんを煮るためのお湯沸しが始まると、「木を割って、細かくして入れなきゃ」と言って、その後はずっとまき割りをして火にまきを入れていた。何度も何度もまきをナタで地面にたたきつけ、1時間くらいもくもくと割り続けていた。力強くまきを割り、しばらくして「ふう～」と言って汗をぬぐっていた。

みんなで作ったうどんは超うまいと言って、むしゃむしゃ食べていた。その後、「少し硬かったけど、うまかった」と言った。

【炭塗り】

どんどん子どもやスタッフに炭を塗ろうと走り回っていた。「トミーとけいちゃんは仲間ね、炭を奪われちゃだめだよ」と言って、炭を分けた。他の子にも声をかけて、どんどん仲間を増やそうとしていた。

【自由遊び】

入浴後、夕食までの時間に将棋をした。最初は楽しく指していたが、私に負けそうになると顔が曇ってきてイライラした様子だった。負けると片

づけをせずに、食堂に走っていった。

食堂で椅子に座っている A.T に「けいちゃん、さっき調子に乗っちゃった。ごめんね」と謝ると、「わかっている。けいちゃんそういうところあるもんね。いいよ、許してあげる」と言った。そして、「じゃあこれ食べてね」と言って、私の皿に自分の嫌いな食べ物を乗せた。「わかった、食べるよ」と答えるとニコッと笑った。

【夜のお楽しみ会】

子どもたちがおばけ役の肝試しを行った。A.T の部屋に行って扉を開けるとすぐに白いシーツを被った A.T がいて、「悪魔だぞ～」と怖い声を作ってスタッフを驚かしていた。

【日記】

おばけ役(悪魔)が楽しかったらしく、『夜のお楽しみ会が楽しかった』と書いた。「トミーとけいちゃんが怖がり過ぎて、面白かった。またやりたい」と言った。

(5) 5日目

【チャレンジハイキング】

私たちのグループが一番前を歩いた。A.T はとにかく先頭を歩きたがり、リーディング役の私の前を歩いていた他のグループの H.S に「ずるいぞ、ちゃんと後ろを歩けよ」と怒っていた。途中から同じグループの M.R と先頭を競い合っただけケンカをしたが、「けいちゃんの前に出ちゃいけないってルールがあるんだよ」と言うと、私の真横やすぐ後ろをトミーと歩いていた。しかし、M.R とはお互いに謝ることはできなかった。

山登りでは、「まだ全然疲れてないからもっとペースあげてよ」と言い、「疲れてないの？」と尋ねると「疲れてない、余裕」と答えた。登山後の休憩では、山で拾った木の枝で、同じグループの K.M とチャンバラごっこをして遊んでいた。

【バーベキュー】

率先して道具や食材を運んでいた。肉を運ぼうとした時に、肉が手につきそうになって「うわあ」

と嫌そうな顔をした。そこで、一緒に食材運びをしに来ていた Y.K に「運ぶもの交換して」と言って交換してもらい、野菜を運んだ。

「油の多い肉は嫌いだから食べない」と言って肉は食べず、「その代わりにソーセージ多めね」と言って、ソーセージを沢山確保していた。また、焼ソバは苦手な野菜が入っていても「うまい、うまい」と言って食べていた。

【別れの集い】

集いの会場までの道で「手をつなごう」と言われ、A.T を真ん中にして 3 人で手をつなぎながら歩いた。「もう明日で終わっちゃうんだ」と悲しそうな声で言った。

キャンプファイアーを囲んでいる時、最初は火の中に石を投げて遊んでいたが、近くにいた H.S も投げるようになると H.S を怒った。M.R に「A も投げてたじゃん」と言われると、「僕はもう投げないよ」と言って石を握りしめていた。その後は石を投げず、そのうちボーッと火を眺めるようになり、「暖かいね」と言った。

『今感じていること、これからの目標』が始まると、最初 A.T はふざけたことを言おうとしていたので、トミーが「言いたいことを言えばいいよ」と言った。A.T の発表中、M.R がいろいろ言ってきて、A.T は途中言葉につまってしまった。そして、「もういい、言いたくない」と言って泣き出してしまった。発表を諦めそうになったが、M.R のパディのタクシンが謝りに来た。そして、トミーが「最後まで聞きたいな」と言って、諦めずに最後まで言うことができた。A.T とパディ 3 人で抱き合いながら泣いた。

その後、泣き止まない A.T に昼間ケンカした M.R が謝りに来た。「元気出せ、泣くな。これやるから」と言って石をくれて、A.T は「ありがとう、もう大丈夫。ごめんね」と言えた。しばらく、お互いに「ごめん」と言い合っていた。

【日 記】

『登山をした。けいちゃん、トミー』と書いた。

また、「明日は M.R と UNO して遊ぶ約束したんだ」と嬉しそうに言った。

【就 寝】

寝る直前、「けいちゃん、トミー大好き。また会いたい。家庭訪問しに来てよ」と言われ、「私も大好きだよ、また会おうね」と言った。

(6) 6 日目

【ラジオ体操】

前の 5 日間ではほとんどラジオ体操をしなかったが、この日はバツタを速く捕まえて、だらだらとあまりやる気のない感じだが、ラジオ体操をした。

【朝 食】

隣の席に座っていた H.S の醤油ゴハンに対して、最初 A.T が「なんだよそれ」と言って、その後も「そんなことして食べれんのかよ」、「そんなことするんだったら食うなよ」と言った。何度か言った後、H.S が A.T に唾をかけ、A.T も唾をかけ返した。トミーがすぐに間に入って、A.T と席の場所を交換した。

【外遊び】

A.T が虫取り網を二本使いたくて、K.M に「貸して」と言って借りたが、その後 K.M が「網、返して」と言っても A.T が「嫌だ」と言って、虫取り網の取り合いになった。そして、K.M のことを蹴った。その後 K.M が跳び蹴りをしてきて、それを背中にくらった A.M は呆然としていた。

【鹿沼サンド】

鹿沼サンドは自分でアレンジして作り、それを「おいしい」と言って食べていた。それに対してトミーも「おいしいね」と返した。

【バス移動】

最初のうちは 6 日間の出来事や捕まえて持ってきたカマキリやオニヤンマの話をしてしたが、途中から行きのバスのようにゲームやアニメの話をした。

その後、M.R から呼ばれて UNO をしに席を移動した。とても楽しそうに笑いながら UNO をしていた。

【閉会式】

バスから降りた後で閉会式の前に、両親と愛犬と会ってとても嬉しそうにしていた。その後、私たちに愛犬を紹介してくれた。

閉会式では、賞状を喜んで受け取り、「折らないでね」と言って母親に渡していた。

閉会式後は3人で写真を撮り、車に向かった。「楽しかったよ、ありがとう。また会おうね」と言って、車に乗ってもずっと手を振っていた。

4. 事後のアンケート

今年度の援助的サマースクールについて、保護者の方にアンケートを行った。以下は、アンケートによる事後報告である。

帰宅後、A.T が話したことは、バディとたくさん話をしたこと、肝試しが楽しかったこと、同じ部屋になった友達とケンカしたり遊んだりしたこと、魚を手で捕まえてその魚が美味しかったこと、竹の切り方のこと、山登りが暑かったけど楽勝だったこと、うどん作りやピザ作りの大変さがわかったということなどが挙げられていた。

料理の楽しさを覚え、たまに進んで家事を手伝うようになった。また、食わず嫌いだった魚を少し食べられるようになったとのこと。子ども達が遊んでいる中に話かけていくようになり、少し自信がついたように思うとのことであった。

一番印象に残っていることは、全部が一番楽しかったと語っている。その中でも特に、おばけになってスタッフを驚かせたことと、バディとお話したことが思い出に残っているとのことであった。

III. 考 察

1. 性格特性について

ADHD の主な特徴として、不注意、多動性、

衝動性という3つの特徴がある。尾崎ら(2001)は、「不注意とは、注意や集中が適切にできない状態をいい、集中すべきところに集中できず、目的のある行動がとりにくいこと。多動性とは、状況からみても社会的に不適切で、目的のない行動をとる傾向のこと。衝動性とは、思いついたことや外部からの刺激に対して反応を抑えられず、即座に反応してしまうこと」と述べている。

サマースクールにおいて、A.T には同じような側面が見られた。自分の思い通りにならないとイライラしてしまうことが多く、そしてうまくいかない途中で投げ出してしまうことがあった。これらの特徴は、前で述べたように、ADHD によくみられる特徴である。しかし、興味のあることには長く集中できるという特徴も見られた。特に、虫取りをしているときや、ご飯をもくもくと食べているとき、4日目のうどん作りの時のまき割りですれを感じた。

A.T の性格の特徴としては、受け入れる優しさと素直さが見られた。それらを感じたきっかけは、4日目の自由遊びのときである。私と将棋を指していて負け、イライラしてその場を離れた。この時、私が A.T に気を使って勝たないように指していたことが、イライラの原因になったと思われる。その後、私が謝りに行くと、イライラしているにも関わらずちゃんと話を聞いてくれ、謝罪を受け入れた。そして、私の駄目なところを指摘し、理解してくれた。また、5日目の別れの集いの時、泣きながらも M.R の話を聞き、謝罪を受け入れていた。そして、自らの非を認めて、M.R に謝った。ADHD の特徴から、感情が昂ぶっている時に、相手に注意を向けることは難しいことだと思われる。なので、これらの受け入れる優しさと素直さは、A.T の性格特性であると考えられる。

2. コントロール行動と自尊心

A.T は、サマースクール初日からグループの

リーダーに立候補し、グループをまとめようとしていた。その様子は、初日のオリエンテーションや3日目のカレーコンテスト、5日目のチャレンジハイキングで特に見られた。このように仕切ろうとするコントロール行動もまた、ADHDの特徴の1つである。Selikowitz (1995) は、「自尊心の低い子どもは、自分のことをコントロールするのが苦手と感じていて無力感を感じ、他の子どもに命令したり支配したりしようとする」と述べている。このように他人をコントロールしようとすることや攻撃することによって、低い自尊心を保とうとしていると考えられる。A.Tのグループを仕切ろうとする傾向や、思い通りにいかない・うまくいかないときの攻撃性は、この自尊心の低さからくるものだと思う。また、コントロールしようとしてうまくいかないと、より自尊心が下がるという悪循環もある。

しかし、A.Tはそのような経験を繰り返すことを通して、自分の意見を通そうとするだけでなく、相手の意見も聞いて、その上で少し妥協して自分の意見を伝えるようになった。お互いにまっすぐな意見を言い合うことによって、相手の意見を受け入れ、尊重できるようになっていったように感じられた。これは、相手をコントロールしようとするのではなく、尊重しようとすることによって、相手の意見を素直に受け入れられるようになったのではないだろうか。そうすることによって、自分の意見も相手に受け入れられやすくなり、自尊心が高まったと考えられる。

3. 全体を通して

この6日間は、対人関係上のトラブルが多かったように思われる。しかし、日を追うごとにイライラしても自分の意見をしっかり相手に伝えられるようになり、相手の意見もしっかり聞けるようになっていった。一方的なやり取りではなく、相互のやり取りができるようになったことによって、お互いにわかり合えるようになっていったのでは

ないだろうか。自分のまっすぐな意見が受け入れられたことでそれが自信となり、自尊心が高まったと考えられる。

また、自尊心が高まることによって、自分をコントロールしやすくなり、相手の意見を素直に受け入れやすくなるのではないかとと思われる。

IV. 終わりに

A.Tにとって初参加となった今回の援助的サマースクールという特別な場での6日間は、ありのままの自分を表現することができ、それを受け入れられたと感じられる場だったのではないだろうか。A.Tの不器用な素直さを無条件で受け入れてくれる人達がいることによって、自尊心が高まり、本来の素直さを表現できるようになったと考えられる。

それを引き出してくれたサマースクールという場、スタッフや参加者の皆さん、そして多くの気づきを与えてくれたA.Tに感謝し、今後に活かしていきたい。

引用文献

Mark Selikowitz (1995). All about A. D. D.

(マーク・セリコウィッツ, 中根晃・山田佐登留 (訳)
(2000). ADHDの子どもたち 金剛出版)

尾崎洋一郎 (2001). ADHD及びその周辺の子どもたち — 特性に対する対応を考える — 同成社